

悪魔化の危険：西側ニュース・メディアの崩壊

【訳者注】筆者ロバート・パリーは、調査リポーターとしての長い経歴によって、メディア世界を知り尽くした人で、現在は真実を伝えるウェブサイトを経営している。これを読めば、日本を含む西側のメディアが、特に外国のニュースに関する限り、いかに恥ずべきものであるかがわかる。彼が若かった頃は、これほどではなく、政府から聞いた話は疑ってかかるのが、ジャーナリストの自負だったと言う。今は逆に、そのまま受け取るどころか、政府発表とは逆の証拠をもっていると言う者に、敵意さえもつことがあると言っている（4頁下）。さもありませんかと思う。こうなると頼りないメディアでなく、腐ったメディアと言わねばならない。

「悪魔化」とここで言っているのは、我々が最近よく聞く「ヘイトスピーチ」の最たるものだが、これを世界的にやっているのは、米政府の意を受けた主流メディアである。これはれっきとした犯罪である。なぜなら、無実の者を、自分の世界支配の邪魔になるからといって「悪魔化」する者は、その者自身が悪魔であり、その片棒を担ぐ者は犯罪者だからである。

Robert Parry

May 17, 2016, Consortium News



西側がシリア紛争にますます深く巻き込まれ、ロシアとの新しい冷戦を始めるようになるにつれて、主流ニュース・メディアは、信頼しうる情報の伝達者としては崩壊し、世界に対して危険を創りだしている。

知識人の中に、最近のニューヨーク・タイムズの、ロシアやウラジミール・プーチンについての記事を見て、読者はこれを、客観的な、バランスの取れた内容と考えるだろう、と予想する者がいるだろうか？ むしろそこに語られているのは、誰にもわかる、軽蔑と嘲笑の混じった話ではないだろうか？ そしてこれは、ワシントン・ポスト、NPR、MSNBC、CNNなど、どんな主流の米ニュース媒体でも同じではないだろうか？

そしてこれはロシアだけではない。同じ傾向は、イラン、シリア、ベネズエラ、ニカラグアなど、米政府の“敵国リスト”に分類された国家や運動についても当てはまる。同じ（悪魔化の）パターンは、2003年のアメリカの侵攻以前の、サダム・フセインとイラクについても、2011年のアメリカの指令する爆撃キャンペーン前の、ムアンマル・カダフィとリビアについても、2014年のアメリカの采配によるクーデタ前の、ヤヌコビッチとウクライナについても見られた。

これは、これらの国家やリーダーに落ち度がないという意味ではない。落ち度はある。しかし報道陣のあるべき役割は——少なくとも、私が AP 通信で若いころ教えられたことだが——すべての証拠を客観的に、両サイドに公平に扱うことである。誰かが気に入らないからといって、あなたの感情が見え見えだったり、その事実を偏見のプリズムで見てよいわけではない。

“古きよき時代”には、その種の振舞いは職業倫理に悖るとされ、上役の編集者にひどく叱責されたものである。しかし今は、あなたが罰せられるのは、あなたが何らかの異端的な人を引用したり、そのような人に署名入り記事を書かせたり、トークショーに出したりする場合だけのようなだ——要するに、“敵”について、公的なワシントンの“グループ思考”を共有していない人である。グループ思考からの逸脱は、現実に資格がないという意味になった。

しかし、このような順応性は、思想と言論の自由を誇りにしている国では、ショッキングで受け入れられないはずである。実際、“敵”国に対する非難の多くは、彼らがいろんな形の検閲を行っていて、政権に都合のよいプロパガンダだけを大衆に聞かせている、というものである。

しかし、アメリカの主流メディアの誰かが、ロシア大統領プーチンについて、何かポジティブなことか、そう匂わせることを言ったのを、最後に聞いたのは、いつだっただろうか？彼はひたすら、無作法な道化師か、人間の姿をした悪魔のように描かれる。元国務長官ヒラリー・クリントンは、2014年に彼をヒトラーに喩え、大喝采を博したものだ。

あるいは、米メディアの中に誰か、シリアの大統領バシール・アル・アサドと彼の支持者は、本当は、米報道が好んで反政府“穏健派”と呼んでいる者たちを、恐れる理由があるかもしれないことを、おくびにも出した者がいるだろうか？——“穏健派”はほとんど、アルカーイダのアルヌスラ・フロントのような、スンニ派過激集団の軍事命令の下に活動しているのが事実であるにもかかわらず。(Consortiumnews.com の“Obama’s ‘Moderate’ Syrian Deception” (オバマの“穏健派”シリア欺瞞) 参照。)

<https://consortiumnews.com/2016/02/16/obamas-moderate-syrian-deception/>

シリアの“内戦”の最初の3年間、唯一の許されたアメリカの物語は、いかに残忍なアサドが、おとなしい“穏健派”を虐殺しているかという話であった。実は、防衛情報局アナリストや他のインサイダーたちは、2011年の反乱の当初から、暴力的なジハードイストがこの運動に加わっていると警告していたのである。

しかしこの後者の話は、イスラム国が2014年に、西洋の人質の首を切り落とし始めるまで、アメリカの民衆には知らされていなかった——そして、それ以来、主流米メディアは、そのより詳しい話を、気乗りのしない歪めた形でのみ報道するようになっている。

(Consortiumnews.comの“Hidden Origins of Syria’s Civil War”参照。)

<https://consortiumnews.com/2015/07/20/hidden-origins-of-syrias-civil-war/>

なぜ盲従するのか？

ジャーナリストたちがなぜこんな風に盲従するのか、その理由は単純である。彼らは、世間並の知恵を繰り返していれば、目立つ外国特派員とか、テレビトーク司会者とか、大きなシンクタンクの“招へい学者”として、割りのよい仕事にありつける希望があるからである。ただし、予想されていることを言わなければ、あなたの出世の見込みは、あまり芳しくはないだろう。

あなたが、主流メディアの世界に入ったとして、何か“グループ思考”に、ほんの穏やかにでも挑戦したりすれば、あなたは埋め草“弁明論者”とか“手先”として、弾劾されることを予期しなければならない。高収入で、世間並の知恵の化身のような人物が、あなたは、軽蔑されたリーダーからカネをもらっていると非難するだろう。そしてあなたは、再び招かれることはないだろう。

しかし、外国の“敵”を悪魔化するという西側のやり方は、言論の自由と意味深い民主主義に対する侮辱であるだけではない。それは、アメリカやヨーロッパの、良心をもたないリーダーどもを勢いづけ、多くの人を殺して西側に対する憎しみを増幅させる、暴力的で無思慮な行動を取らせる。

もっとも明らかな最近の例はイラク戦争である。これは、イラクについての、虚偽の、誤解させる主張を、矢継ぎ早に発表することによって正当化されたもので、そのほとんどが、受動的で共犯的な西側の報道陣によって、丸呑みされたことによる。

あの悲劇のカギは、サダム・フセインの悪魔化であり、彼はあまりにも無慈悲なプロパガン

ダに曝され、彼が大量破壊兵器（WMD）をもっていて、アルカーイダと協力しているという、彼に投げつけられた根拠のない非難を、あえて疑う者はほとんどいなかった。もしそんなことをしたら、あなたは“サダム弁明論者”か、それ以下の者だと言われたであろう。

あえて自分の声をあげた少数の人々は、謀反を働く者という非難を受けるか、人格暗殺に逢った。しかし、侵攻前の、いわれのない非難が崩れて、彼らの懐疑が正しかったことがわかった後でも、再検討ということがほとんどなかった。懐疑論者のほとんどは無視されたままで、WMDの話の間違って受け取った者たちの事実上すべてが、責任を免れた。

問われない責任

例えば、イラクの WMD を“確実な事実”として繰り返し報道した、ワシントン・ポストの編集長 Fred Hiatt は、全く悪びれることもなく、今もその威信ある職に留まっていて、いまだに“敵”について、一方的な“グループ思考”を押し付けている。

（数節省略）

すべてこれらの論点は、ポスト紙の読者に、なぜプーチンとロシアがそのような行動を取るのかについて、もっと十分で、もっと公平な理解を与えることもできた。しかしそのようにすれば、プーチンを悪魔化することを意図したこのプロパガンダ物語が、台無しになってしまったであろう。その目標は、アメリカの民衆に情報を与えることでなく、彼らを操作して、ロシアに対する新しい冷戦の敵意を植え付けることだった。

我々は、よく目立つ事件をめぐる米政府の“情報戦争”についても、同じパターンを見てきた。“古きよき時代”、少なくとも、私が 1970 年代末にワシントンへやってきた時には、ホワイトハウスや国務省の公的な路線について、ジャーナリストの間に、もっと多くの懐疑的な見方があった。実際、報道官や高官たちの言っていることは何でも、単純に受け取らず、本当か調べてみるのが、ジャーナリストの間で自負を示すものだった。

トンキン湾のウソから、ウォーターゲイトの隠ぺいまで、十分な証拠が豊富にあって、我々は、政府の主張を批判的に確かめてみる事ができた。しかし、その伝統もまた失われてしまった。イラク戦争前の高価な欺瞞にもかかわらず、タイムズも、ポストも、他の主流メディアも、米政府が“敵”に投げつける非難を、何であれ単純に受け入れている。騙され易さを越えて、我々の間には、本当の証拠を見た主張する者に対する敵意さえある。

この続いているパターンの例としては、2013 年 8 月 21 日の、シリアのダマスカス郊外で

の、サリン・ガス攻撃について、また 2014 年 7 月 17 日の、ウクライナ東部上空での、マレーシア航空機 17 便の墜落事件について、米政府の方針を受け入れてしまっている。前者は、シリアのアサドのやったことにされ、後者は、ロシアのプーチンがやったことにされた。これは好都合であった——米高官が、彼らの主張を裏付ける確かな証拠の提出を、全く拒否したにもかかわらず。

疑うべき理由

両方の場合とも、公的物語を疑うべき明白な理由があった。アサドは国連調査団を招いて、彼が反乱兵の化学攻撃だと主張するものを、調査させたばかりだった。だから、なぜ彼がその時を選んで、調査団が滞在していた所からほんの数マイルの場所で、サリン攻撃を始めたか？ プーチンは、アメリカを背後にもつクーデタに抵抗するウクライナ人々への、ロシアの援助について、低姿勢を維持しようとしていた。にもかかわらず、大きな、高性能で強力な対空砲を引っ張っていき、東ウクライナに提供するのは、見つけてくれと言っているようなものであろう。

更に、両方のケースとも、アメリカの情報アナリストの間に異論があった。彼らの中には、少なくとも断定を急ぐことに反対する人たちがいて、これらの事件の異なる説明をし、犯行者は別の方向にいるかもしれぬと言った。この異論によって、オバマ政権は、“政府査定”という、本質的にプロパガンダである文書を、新たにでっち上げることになったが、これは、16 人の情報局員がコンセンサスを述べ、反対意見をも容認する、古典的な“情報局査定”とは違うものだった。

だから、ワシントンのジャーナリストが不審を抱く理由、少なくとも、アサドやプーチンを非難するための、確かな証拠を要求する理由は、いくらでもあった。ところが、アサドやプーチンの悪魔化された見方を、ひとたび与えられると、主流メディアのジャーナリストは、公式物語の背後に列になつて従った。彼らは、政府の物語を覆すに足る証拠を、無視したり隠したりさえした。

シリアの場合について言うなら、一つのサリンを詰めたロケット（国連によって回収された）は、約 2 キロの射程しかもたなかった（したがって、シリア政府が 8～9 キロ離れた所から多くのロケットを飛ばしたという主張は崩れる）という科学的な発見には、ほとんど興味が示されなかった。（Consortiumnews.com の “Was Turkey Behind Syria-Sarin Attack?” 参照。 <https://consortiumnews.com/2015/09/16/was-turkey-behind-syria-sarin-attack-2/>

MH-17 事件について言うなら、オランダ情報局が、何台かの稼働する Buk 対空ミサイル砲

が東ウクライナにはあったが、それらはすべてウクライナ政府の管理下にあつて、反乱軍は MH-17 の飛んでいた、30,000 フィートの高度に到達する、どんな兵器ももっていなかった、という結論を出したことは無視されている。(Consortiumnews.com の “The Ever-Curiouiser MH-17 Case” (ますます奇怪な MH-17 事件) 参照。

<https://consortiumnews.com/2016/03/16/the-ever-curiouiser-mh-17-case/>

これら 2 つのケースは開かれたままで、米政府解釈を支持する、新しく現れる証拠を除外はできないとはいえ、公式物語を疑うべき確実な理由があるという事実は、主流メディアがこれら 2 つの敏感な問題を扱うやり方に、反映されるべきである。しかし、これらの不都合な事実は、払いのけられるか無視されている(イラクの WMD についてそうだったように)。

要するに、西側ニュース・メディアは、外国の危機を扱う専門機関として、組織的に崩壊しているのである。だから、世界が、シリア内部やロシア国境で、ますます深い危機に陥っていくときに、西側の市民は、現地の独立したジャーナリストからの情報もなく、ほとんど何も目にも耳にも入らない状態に置かれていて、一方、大きなニュース局は、ワシントンや他の首都からくるプロパガンダを流して続けている。

(調査リポーターであるロバート・パリーは、1980 年代に、AP 通信やニューズウィークに、多くのイラン・コントラ物語の真相を暴いた。彼の最新著 *America's Stolen Narrative* は、プリント版か E ブック (Amazon や barnesandnoble.com から) で購入することができる。https://org.salsalabs.com/o/1868/t/12126/shop/shop.jsp?storefront_KEY=1037)